

第 24 号 2020 年 1 月

《 「百舌鳥・古市古墳群」世界文化遺産登録 》 会長 鈴木繁實

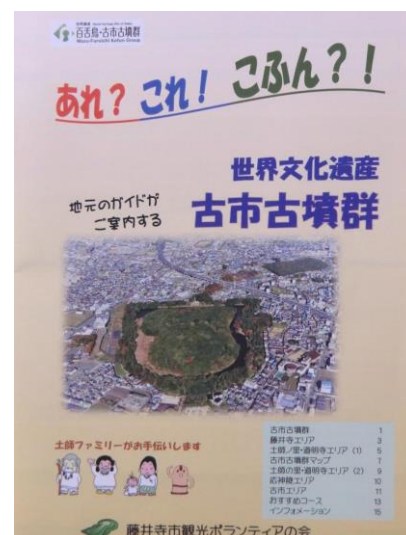
明けましておめでとうございます。

日頃より当会の活動にご参加と、ご支援いただき誠にありがとうございます。

昨年 7 月、百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録され、当会もあわただしく令和の新時代を迎えています。登録後、申し込みによるガイドは例年の2～3倍に増え、ふじいでら秋季ウォークや連携する記念イベントでも多くのお客様をお迎えしています。

また、登録を記念して、古市古墳群ガイドブック「あれ？これ！こぶん？！」を発行しました。当会主催のイベントおよびウォークに参加された方に期間限定で配布しています。

今後とも古市古墳群をより身近にご案内するとともに、その保存にも努めてまいりたいと思います。藤井寺にはその他にも神社・仏閣など様々な文化遺産があります。ぜひご参加とご支援をいただきますようお願い申し上げます。



古市古墳群ガイドブック

《 世界文化遺産登録決定 号外とチラシを配布 》

2019 年 7 月 6 日



配布 道明寺駅・藤井寺駅



当会発行のチラシ



藤井寺市発行の号外

《 秋季ウォーク 》 ココがすごい!“古市古墳群” 11月16日(土)

11月16日(土)ふじいでら秋季ウォークが開催されました。形も大きさも様々、登れる古墳あり、見学できる石室ありと、バラエティーに富んだ古市古墳群の魅力をたっぷり詰め込んだ、半日約5kmのコースです。

朝から天気も良く、絶好のウォーク日和となりました。参加者も183名を数え、順次ガイドの誘導でスタートです。道明寺天満宮～仲姫命陵古墳～古室山古墳～応神天皇陵古墳～仲哀天皇陵古墳～生涯学習センターで出土品などを見学の後、藤の森古墳石室でゴールでした。

藤井寺市内や近郊はもちろん、府外からも大勢ご参加いただきました。古室山古墳後円部頂上からの眺め、応神天皇陵古墳の神秘的な佇まい等を存分に楽しんでおられたようです。

世界遺産となった古市古墳群の魅力を少しでも感じていただき、興味をお持ち頂けたでしょうか。長い歴史の中で古墳と家々が対話する街、藤井寺の素晴らしさを一人でも多くの方に知っていただければと思います。(網本)



仲哀天皇陵古墳にて

《 あい・ウォーク 》 藤井寺南・西小学校 9月29日(日)

藤井寺ライオンズクラブ、当市青少年指導員会、市教育委員会の共催で「あい・ウォーク」が実施されました。今年は藤井寺南小学校と藤井寺西小学校合同で、児童および保護者合計77名が参加しました。

シュラホールに集合し、学校周辺の仲哀天皇陵古墳、鉢塚古墳を巡るウォークです。

仲哀天皇陵古墳では「おおきいなぁ」とながめて歩き、改めてその大きさを実感し、鉢塚古墳は「ここ登ったことある!」と誇らしげでした。

シュラホールでは展示物をじっくり見るのは初めての子供が多いようで、説明を静かに聞いていました。また、今年敷地内に移設された藤の森古墳石室では室内を興味深く覗き込んでいました。

1時間半ほどのウォークの後、クイズに答えてお菓子をもらい、最後にあつあつの焼き芋を頂いて終了となりました。(岩崎)



藤の森古墳石室にて

《 五私鉄リレーウォーク 》 10月6日(日)

今年で20回目になる五私鉄リレーウォークが開催されました。古市古墳群が世界遺産に登録後、初めてのビッグイベントです。私たち藤井寺市観光ボランティアの会は、仲姫命陵古墳・古室山古墳・仲哀天皇陵古墳の3カ所の定点ガイドを担当することになりました。

私は仲姫命陵古墳を担当しました。歩き始めの参加者は素早く目の前を歩かれ古墳自体には関心がないようでした。しかし、次第に立ち止まり、案内を聞く方々が増えてきました。気がつくと8人いたガイドの回りには、説明を聞く多くの参加者で大賑わいになりました。

この日の参加者は、3364名でした。これを機会に、古市古墳群を訪れてくれる人が増えるといいですね。(吉田常)



古室山古墳に登る人々の列

当会観光ボランティアのメンバー25名が、藤井寺市役所を12時30分に堺市へ向けて出発した。案内役は藤井寺市役所世界遺産登録推進室山田室長である。バスの中では古墳のみならず、広く南河内の歴史まで、日頃の蘊蓄(うんちく)を聞きながら大仙公園に到着した。

博物館では鉄砲、南蛮船、刃物と幅広い展示に駆け足になる。仁徳天皇陵古墳ではボランティアの方が「世界遺産決定後1日1000人ほどの来訪者で、10時～16時半までを2人2交代で案内しています」と話されていた。

その後、バスで移動し履中天皇陵の話題の展望台に登った。背丈ほどで高くはないが濠に近く、全国3位墳丘長365mの古墳が迫ってくる。濠のフェンスにバードウォッチング用の窓があるのがうれしい。古墳が人にも野鳥にもやすらぎの場であることを願いつつ帰途に就いた。

(南)



履中天皇陵展望台から

*** これからの当会の催しの予定とお知らせ ***

どうぞお越しください

◎梅まつり 道明寺天満宮境内の案内 2月9日(日)～2月29日(土) 奉納俳句締め切り2月22日(土)
◎春季ウォーク 4月4日(土) ◎藤まつり 葛井寺境内の案内 4月19日(日)～4月30日(木)
◎歴史講座 5月中旬から6月の予定

- * 当会はウォークのガイド申し込みを受け付けています。
- * ウォークや各イベントに参加された方に「あれ！これ？こふん？！」のガイドブックのプレゼントがあります。
- 詳細は当会ホームページをご覧ください。



大井という村の物語 6

樽野 優

エッセイスト

大井という村の真ん中に誓願寺というお寺があります。正式には浄土真宗本願寺派大悲山誓願寺といひます。

誓願寺の寺伝によれば、鎌倉時代、源頼朝の家来であった佐原義光(さわらよしみつ)という人が紀伊、和泉、河内の3ヵ国の守護に任じられ大井に居を構え、その義光の4代あとの盛光(もりみつ)という人が親鸞聖人に帰依して大井に盛光寺(じょうこうじ)という浄土真宗のお寺を建立したそうです。時は移り大坂夏の陣で豊臣家が滅んだ後、近江国浅井郡の箕浦誓願寺というお寺が「豊臣家の旧臣の遺児を匿った」という罪で領主・井伊家に取り潰され、当時、大井盛光寺から住職として赴任していた照空は本願寺の計らいで大井盛光寺の住職に戻り、更に誓願寺という名が絶えるのを惜しんだ本願寺が大井盛光寺を誓願寺と改めさせたのが大井の誓願寺の始まりだそうです(この項『大井誓願寺の歴史』平成16年6月誓願寺前住職・秦晃照編著より)。この時、浅井郡から警護についてきた近江侍が大井に住み着いたのが、近世の大井の集落の始まりとされています(今でも子孫の方がおられるそうです)。

話は遡りますが、浄土真宗門徒は八代蓮如上人のとき石山本願寺に立て籠り10余年に亘って織田信長の軍勢と戦います(石山合戦)が、この戦いに敗れ追放された僧・門徒の多くは紀州・鷺の森(現和歌山市)に落ち延びて行きます。その際、紀州に行けなかった僧の子孫が近郷のお寺に預けられ、当時の大井盛光寺にも赤子が預けられたそうです。そして、その赤子が成人しても織田政権に歯向かわないよう監視のため寺の周囲に侍を住ませました。

実は前号でお話した「アテ曲げ」造りは、盛光寺(の赤子)を外敵から守るためのものだったのです。20年程前、誓願寺の鐘楼門の屋根の吹き替え工事の際、天井裏から弓矢が見つかり、お寺側も襲撃に備えて武装していたことが判りました。その後、本願寺と戦った信長が亡くなり、本願寺を庇護した秀吉も亡くなり、本願寺を西と東に分けた家康も亡くなり、誓願寺を護っていた侍たちも周囲に住んでいた監視の侍たちもいつしか帰農して本願寺門徒となりました。

祝 世界遺産！

「傑出した歴史的価値」との高い評価を受け、百舌鳥・古市古墳群 49 基が世界文化遺産に登録された。

古市古墳群に限って言えば、4 世紀後半から 6 世紀中頃にかけて、前方後円墳・円墳・方墳・帆立貝形の 130 基が築造された。

だが、今や現存するのはたった 45 基である。そのうち 26 基が世界遺産に登録された。なんと 85 基が災害で壊れたり、開発で壊されてしまったのだ。

藤井寺市と羽曳野市の境に、青山古墳という 62m の円墳がある。

かつては一帯に 11 基の小さな古墳が点在し、古墳群を形成していた。集団の長が三世代をかけて営々と築いたものだ。だが現在は青山古墳 1 基を残すのみである。道路わきの説明板が、うら寂しい。130 もの緑の小山や森が、そこそこに点在していた光景を想像してほしい。どんなに壮大で清々しく美しかったろう。そして神秘的だったことか。

地下に眠る、今は消滅古墳と名を変えた哀しい古墳たち。

それらの古墳もかつては青々と樹々を茂らせて輝いていた。人々から崇められ親しまれてもいたはずだ。そこには、どれほど多くのドラマがあったことか。

だが形と一緒に、精神性や温もり親しみも消えてしまった。

人はなくして初めてその大切さを知るのである。これ以上哀しい古墳を増やしてはならない。だからこそその世界遺産である。

これを機に、消えてしまった古墳にも思いを馳せ、現存する古墳の保全に一層の努力をしなければならない。

雄大だったり、可憐だったり、住宅地の中にうずくまっていたり、見過ごしてしまいそうだったり、様々な表情を持つ、百舌鳥・古市古墳群は、これからも 1500 年以上も昔の姿を、長く後世に伝えるのである。

まことに喜ばしいことである。

(2019.7.HP に掲載)



古墳群のあった市街地を望む



古墳群跡の説明板

★お詫び：前号の「古墳のある風景 14」の中に他の文言が含まれました。申し訳ありませんでした。
古墳のある風景 15・16 は次号より順次掲載させていただきます。